

九州百名山山行報告

【山行日】2023年 10月 27日(金)～31日(火)

【集 合】岩舟支所 P AM 4:00

【費 用】交通費他 : 114,000円

【メンバー】CL:鈴木、SL:石澤 飯野、小林、福島

10月27日(金) 曇り後雨後晴れ

羽田空港から熊本空港経由し、仙酔峡登山口から阿蘇山高岳&中岳を登り周遊コースで下山。

岩舟支所P4:00=ホワイトパーキング 5:10=羽田空港 5:30/6:25→熊本空港 8:10/8:30=ニッポンレンタカー 9:00/9:20=仙酔興登山口 10:15/10:30~高岳 12:20/12:50~中岳 13:10~仙酔峡登山口

14:30/14:40=法華院温泉高原テラス 15:30

27日早朝岩舟支所を出発し、羽田空港を予定通り出発して熊本空港に下り立つ。ニッポンレンタ



カーで車を借り、阿蘇の外輪山を抜け、カルデラの中、阿蘇の街に入る。西登山口を過ぎ、グルーっと北側にまわり、10:00 仙酔峡登山口に到着した。空はどんより曇っている。金曜日だからなのか天気のせい、駐車場には数台の車がとまっているだけ。少し不安な中、ストレッチを済ませ登り始める。登り始めて間もなく沢山のミヤマキリシマが咲いていたので驚いた。暖かい異常気象で狂い咲きだろうか？初めて見たが濃い

ピンク色で綺麗だ。ほどなく雨がポツポツしてきたのでカッパを着る。遠く雷もなっている。最悪、山行初日から撤退か？不安がよぎる。1時間程登ったところで、CLは足の痛みがあり引き返して待つということになる。幸いにも遠くの空が少し明るくなってきたので、私Kを先頭に山行続行となる。本や地図は見て予習はしてきたが、初



めての山、少し不安だがメンバーと協力して登ろう！西風が吹いているので、尾根の東は風が弱まり、尾根の西側になると強い中、岩のペンキマークから外れないよう注意しながらつづら折りに登っていく。そのうち、少し霏がかかった先にうっすらと九重連山が見えてきた。やがてすっかり雲は消え青空に！九重連山がくっきりと見えてきた。歓声が上がる。雨や雷の不安から解放



され、カッパを脱ぐ。急坂の仙酔尾根を30分程登ると分岐があり、右に10分程歩くと中央火口丘の最高峰 高岳に着く。眼下には月見避難小屋が見える。やはり山頂も人はまばらだった。眼下の景色を堪能しながら昼食を取り中岳へと向かう。



中岳からは、現在も活動している噴火口からモクモクと噴煙が上がるのが見える。噴火口や山頂標識をバックに思い思いに写真を撮る。私は以前観光で、火口西展望所から遊歩道を少しだけ歩き第4火口を見学したことがあるが、標高の高い山頂からのぞき見る火口は迫力があり、惑星のクレーターを見ているようだ。

中岳山頂からは、近道かと思いき分岐を右に下っていく。後で調べたら時間は変わらなかったの

で、馬の背を歩き火口東展望所まで行けば、第一火口が望めたのにと、メンバーに申し訳なく悔しがる。皆、頂上で充分見られたからいいよと言ってくれたが、この下りはハードだった。急坂かつ大きな石がゴロゴロしていて、足を痛めている F さんには申し訳ないことした。やっとのことで遊歩道にでた。下ってきた道は噴火時の迂回ルートだった。ここからは歩きやすく、CL の待つ駐車場へと急ぐ。無事登山口駐車場に着き、CL と合流して九重山の宿へと向かった。

CL と一緒に登れなかったのは残念だったが、天気が予想以上に好転し、初日からとても素晴らしい山行となった。

S-K 記

10月28日(土) 牧ノ戸峠登山口から久住山と九州本土最高峰中岳に登り、白口岳から鉾立峠を経由し法華院温泉へ。

高原テラス 7:45 = 牧ノ戸峠登山口 7:55/8:05 ~ 避難小屋 10:00/10:10 ~ 久住山 10:50/11:10 ~ 御池 12:10 ~ 中岳 12:25/12:55 ~ 白口岳 13:50/13:55 ~ 鉾立峠 14:45/14:50 ~ 法華院温泉 15:15

ホテルの朝風呂は6:00からだった。さっと入り6:55に朝食バイキングに並んだ。野菜と牛乳を



率先して撮った。茄子の油炒めとシューマイも美味しかった。7:45にはホテルを出発、7:55には昨日下午見した牧ノ戸峠登山口に下ろして貰い、靴を履いてから S リーダーと分かれた。ストレッチをして8:05に出発した。整備された石置の登山道をゆっくりと登って行った。30分程登ると岩場で渋滞していた。少し進むと沓掛山という表示があった。ピークの先の下りの梯子で滞っているようだった。自分たちの順番が来るとゆっくりと慎重に下りて行った。その後



はなだらかな道を左右の景色を見ながら登って行き1512mピーク辺りで休憩した。

またなだらかな快適な道を進んでいった。久住山はまだ見えなかった。星生山と扇ヶ鼻の分岐でまた一休みした。若者が登ってきて「星生山も回る。」や「今日の目的は扇ヶ鼻。」という会話が聞こえた。自分たちは星生山には登らず「久住分かれ」を目指すことにした。登りの途中に靴底が落ちていた。気になったがそのままにしておいた。避難小屋が見えて来た時、「靴底が取れてしまった。」という人がいた。教えてあげると取りに戻って行った。避難小屋に着くと久住山が見えた。嬉しくなりいつまでも眺めていたい気分になった。



雲が少し掛かっている。避難小屋にはトイレ

があり、大勢の人で賑わっていた。並んでトイレを使い出発した。直ぐに「久住分れ」という分岐である。15分程登るとまた分岐になり急登になる。途中、青空が見えたので、チャンスを逃さず写真を撮ろうとしたがうまく撮れなかった。

急登を登り上げるとなだらかに進む。久住山頂には人がたくさんいるのが分かった。山頂に着くと先程まで掛かっていた雲が切れ、太陽が顔を出した。感激して写真を撮った。あれ程雲が掛かっていたのに、山頂で晴れるなんて、なんてラッキーだと思った。山頂でゆっくり過ごし下山を始めた。中岳方面への分岐に来てまた写真を撮ったりして過ごした。分岐から歩き始めた頃ヘリコプターの音が聞こえ始めた。



どこから来るのか分からないが近付いて来る。だんだん見え始めて他の登山者たちが手を振りたりしていた。ヘリコプターには「とよかぜ」の文字が見えた。乗務員が顔を出しているのも見えた。自分たちが登っているピークの先でホバリングを始めた。そして隊員2名が降下して来た。その下には手を振る男性と座り込んだ女性。救助要請をしたのだと分かった。自分たちは先へ進み、御池の周囲の岩場を歩き中岳への登りに差し掛かっていた。チラッと振り返ると、担架のようなものが吊り上げられているのが見えた。12:25に中岳へ着いた時、ヘリコプターは飛び去っていた。中岳には1791mで、九州本土最高峰と書かれていた。



自分たちが登っているピークの先でホバリングを始めた。そして隊員2名が降下して来た。その下には手を振る男性と座り込んだ女性。救助要請をしたのだと分かった。自分たちは先へ進み、御池の周囲の岩場を歩き中岳への登りに差し掛かっていた。チラッと振り返ると、担架のようなものが吊り上げられているのが見えた。12:25に中岳へ着いた時、ヘリコプターは飛び去っていた。中岳には1791mで、九州本土最高峰と書かれていた。

登って来た久住山やミヤマキリシマで有名な大船山が見えた。感激して写真を撮った。

その後昼食にして12:55に出発した。下りはけっこう急で大変だった。法華院温泉への分岐に来ると、やはりロープが張られ通行止めになっていた。相談した通りに山腹を進み、稲星越を目指した。ほぼ水平の道だが左右の灌木が茂って狭くなっており歩きにくい。途中にコケモモの群生地があるようだが見付けられなかった。白口岳へは普通の急登だった。山頂直下が急になる。暑くなって、山頂直前で衣服調整した。

山頂を超えると、大船山はもちろん、坊ガツル湿原、平治岳、三俣山が見えた。また感激して写真を撮った。丁度晴れになった。また、なんてラッキーだと思った。下りはちょっと大変だった。急下りで灌木の中の細い道で分かりにくかった。途中通行止めになっていて、新しい道に誘導されていたが、歩きにくかった。なんとか鉾立峠に着いたのが14:45だった。ここまでくればもう安心と思った。少し前に登って行った人のことが気になった。休んで出発、なだらかな下りを法華院温泉に向かって進んだ。また人に会ったので、どこへ行くか尋ねると「法華院温泉とは反対の朽綱分れの方に帰る。」と言う。そこにキャンプしているとのこと。色々楽しみ方があるものだと感心した。ほぼ近付くとテントを張っている人がいて「ここは第2テント場。第1テント場はいっぱいなので。」と教えてくれた。人気のキャンプ地だなと思った。

法華院温泉山荘に向かうと S リーダーの姿が見えた。合流して部屋に入り、荷物を置くと温泉に入った。気持ちよく温まり、部屋で反省会。話に花が咲いた。夕食は17:30からだったので18:30にはみなさん布団に入りそれぞれに寝付いたようだった。途中起きたりお風呂に行ったり。20:00には完全消灯になったようだった。

(飯野 記)

10月29日(日) 法華院温泉から諏娥守越経由で三俣山南峰・北峰・本峰を周遊し、諏娥守越から長者原へ下山する。高千穂峡へ移動し高千穂峡と高千穂神社を観光しホテル高千穂へ
法華院温泉 7:10～諏娥守越 8:30/8:35～西峰 9:00/9:05～三俣山 9:30/9:35～北峰 10:00/10:10～南峰 11:00/11:05～諏娥守越 12:25/12:45～長者原 14:10/14:25＝高千穂峡P 15:55/16:15＝高千穂神社 16:20/16:45＝ホテル高千穂 16:55＝レストハウス雲海橋 17:30/19:00＝ホテル高千穂 19:10

昨夜は早く寝たので、夜中に目が覚めてまた寝て、を繰り返し最終的に目が覚めたのは5:20だった。身支度を整えて食堂で待ち6:25に並んだ。受け取れるのは団体さんが先だった。一般客になって 2 番目に呼ばれた。ゆっくり味わって食べることができた。

6:55には外に出てストレッチをした。写真を撮り7:10には出発した。Sリーダーは昨日と同じ長者原Pへ直接下るルートを下山する。見送ってくれる S リーダーに振り返っては手を振った。少し急な登山道をゆっくり登って行った。急登を登り上げた場所で休憩した。その後、道はなだらかになり



砂千里のような場所を通った。青空が綺麗だった。砂千里のような場所を過ぎると右斜め前に諏娥守越の避難小屋が見えた。その小屋へ向かって白いペンキマークがたくさんあった。急登を登り避難小屋で休憩した。西峰へも急登だった。今度は岩が多い。足場を選んで慎重に登って行った。



分岐から左へ向かうとなだらかになった。西峰には人がたくさんいた。写真を撮り休憩すると本峰へ向かう。なだらかに進み下り登るといふ快適な道だった。右にピークが見えている。あれは南峰かな？と思うが、近すぎる。南峰はその向こうだろうと、皆で話した。気持ちよく登りながら本峰に着いてしまった。本峰も人がたくさんいた。1744mで1番高いし、山頂も広い。賑わって当然なのだと思います。ところが、北峰へ向かう道が分かりにくかった。ここから北方へ行く人は少ないの

かな？とも思った。でも、向っている人はいる。なだらかな所を過ぎると急な下りになった。大変だった。後で考えると、この山1番の難所だったと思う。鞍部まで下ると安心できた。ここから北峰へ登る時の紅葉が綺麗だった。北峰の山頂標識は縦12cm横20cm位の板で簡略だった。山頂も岩場で西峰・本峰よりは狭い。写真を撮っていたら、若者が「こう撮るといいですよ。」と斜め上から撮ってくれた。背景に長者原や坊ガツル湿原が写るとのこと。感心して聞いていた。朝から2.5H歩いているので大休憩にして、Sリーダーから頂いたドラ焼きを食べた。美味しかった。今までは30分弱だったが、南峰へは1H掛かるとのこと。前半は下りが主なので景色を眺めながら頑張ることにした。北峰を出発して間もなく、



北峰

山頂で追い越して行った女性が、一緒に行っていていいですか？と追って来た。地元の方だそうでトレーニングによく登っているとのこと。三俣山を1周するのは初めてなので迷って違う方へ行ってしまったそう。K林さんが上手に話を聞いていた。地元の方のお話は興味深かった。時々お話を聞いていたので、あつという間に南峰に着いた。その地元の方が、南峰と本峰の間のピークを「四峰」と教えてくれた。南峰の山頂標識は、西峰・本峰と同じ立派な縦型だった。これで三俣山の全ての山頂に登り上げた。後は下るだけ、と思ったが、もちろん登りもある。難所もある。左右の灌木が伸びている所、草がかぶさっている所があった。足元が見えにくい所を慎重に下った。分岐近くなると人が現れた。12時近いのでお昼にしようかとも言っていたが、

朝の砂千里に似ている景色が見えて来たので、頑張って避難小屋まで行くことにした。

分岐で若者が何か言っていた。K澤さんとK林さんが教えてあげていた。私たちと同じく諏蛾守越を目指していたが、間違えて西峰へ行ってしまふところだったらしい。

諏蛾守越の避難小屋に着いたのは12:25だった。昼食にした。風があつてけっこう寒い。早々に切り上げて歩くことにした。山道を下り簡易舗装された下山道に出る。途中から普通の下山道に入った。簡易舗装に慣れると歩きにくいと感じた。また簡易舗装道路に出て、歩き易い道をしばらく進んだ。長者原Pに着いたのは14:10だった。Sリーダーはトイレ近くに車を止めて、待っていてくれた。トイレに入り靴を履き替えると、絶景ポイントに案内してくれると言う。後を付いて行くと、今下りて来た三俣山の全容と紅葉がよく見える場所に連れて行ってくれた。改めて紅葉との美しさと山容の見事さを感じた。本峰と北峰がよく分かった。出発すると

牧ノ戸登山口を過ぎ、県道・国道と進み、午後4時前に高千穂峡Pに着いた。高千穂峡はポスターで見たことがあった。そのポスターと同じ景色が見えている。感激した。20分程堪能した後、高千穂神社へ向かう。途中、本日宿泊するホテル高千穂の前を通過した。神社でお参りし、お守りを買った。神社Pの隣にドラッグストア「コスモス」があった。そこで翌日の昼食を準備した。

ホテル高千穂にチェックインすると困ったことが1つ起きた。本日は結婚式の披露宴があり夕食は外で済ませて欲しいとのこと。紹介されたレストハウス「雲海橋」へ車で向かった。それぞれが好きな物を頼み、先ずはビールとジュースで乾杯。話も弾み気が付くと1時間半が過ぎていた。帰りはI野さんの運転でホテルへ戻った。それぞれの部屋へ戻ると大浴場へ行ったりTVを見たりした。

盛沢山で大満足の1日だった。

(福島 記)

10月30日(月) 北谷登山口から祖母山に千間平、国見峠経由で登り、風穴コースを下り周遊コースで北谷登山口へ下山。

ホテル高千穂 8:20＝北谷登山口 P8:50/9:05～国見峠 11:00～九合目小屋 11:30/11:40～祖母山 11:50/12:30～風穴 13:30/13:40～北谷登山口 P14:35/14:45＝ホテルピコラナイ 18:10

ようやく薬の副作用が薄れ、足の痛みが軽減し皆さんと歩ける自信が戻り、祖母山に登ることにした。ホテルの朝食は7:30からだだが、せっかくなので食べてから出発する。ホテルから国道325号線を走り、河内で右に県道8号線を進み五ヶ所を右折して狭い山道を走り北谷登山口駐車場に着く。駐車場は20台位止められ、トイレが併設されている。出発の準備をしてトイレを済ませ、ストレッチを済ませて出発する。

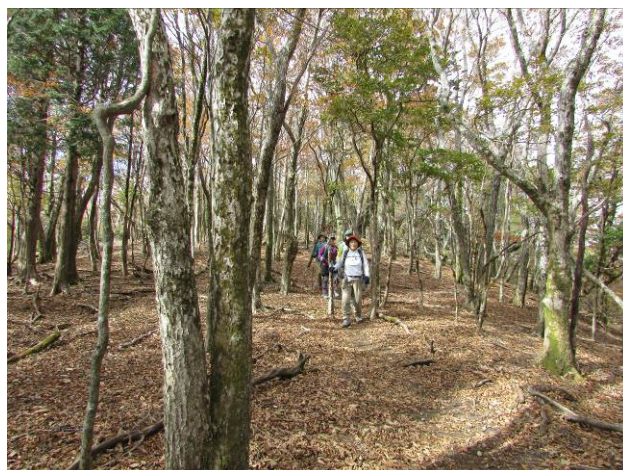


道路の反対側に登山口があり、しばらくはスギ林の薄暗い道を進む。ブナやケヤキ、カ



エデの自然林に変ると尾根に出て、灌木帯の緩やかな道を進む。やがて筒が岳への道を左に分け、広々とした三県境の小ピークに着く。展望も良く休憩を取り、展望を楽しみながら菓子をいただく。ここからも緩やかな尾根歩きが続き、ドウダン等の灌木の紅葉の中を気持ちよく登れる。我輩の足も痛みがそれほど無く、軽快に登って行けた。紅葉を楽しみながらしばらく尾根歩きが続き、明るく開けた国観峠に着く。国観峠で神原からの道と

合流し、ここから山頂までは40分程の道のりである。国観峠から傾斜がきつくなり、赤土がえぐられた歩きにくい登山道を登るようになる。急坂を喘ぎながら登ると避難小屋への分岐に出て、遠回りになるが避難小屋に寄ってから山頂へ向かうことにする。山腹を巻くように付けられた道を進み、10分程で避難小屋に着く。立派な避難小屋で管理人が居り、女性達はトイレを借りて済ませる。避難小屋から少し戻り、分岐を左に進んで山頂に向かう。赤土や岩が露出した急登が続き、頑張る



と祖母山山頂に着く。山頂からは360度の大パノラマが広がり、傾山や本谷山、障子岳、阿蘇山等々が見渡せる。山頂碑の前で記念写真を撮ったら展望が良い場所に陣取り、景色を楽しみながらランチをいただく。ランチが済んだら下山開始し、下山は風穴を経由する道を降りて行く。直ぐに急坂になり、立ち木に掴まったり、根っこにすがったりして慎重に下って行く。左側は絶壁になっており、眼下には紅葉の樹海が広がり素晴らしい景色で

ある。二面岩と呼ばれる絶壁に出ると眺望が素晴らしく、紅葉の海の向こうに障子岳や親父山等が見渡せる。この先から尾根の右側を下るようになり、急な岩の間を下るがカエデの紅葉が見事である。クサリやロープ、ハシゴの下りが連続し、気を抜けないが楽しく下って行く。岩場を覆うようにカエデの紅葉が広がり、皆さんから「ウワ～綺麗と」感動の声が聞こえてくる。

巨岩を下ると風穴と呼ばれる洞窟があり、ロープを伝って降りて行く。洞窟の先は真っ



暗で、ヘッドランプを出すのも面倒なので入口で引き返す。ここからは巨木の林の中を下り、ブナやケヤキの巨木の中にカエデやドウダンツツジ紅葉が彩りを添え、幸せな気分で行く。やがてスギ林の下りとなり、最後の流れを渡ると北谷登山口駐車場に着く。

駐車場にはワゴンタクシーが3台止まっており、マイクロバスが入れないので登

山者の迎えに重宝されるようだ。靴を履き替えトイレを済ませたら車に乗り、明日の韓国岳登山に向けてえびの高原のホテルピコラナイへ向かった。国道325線に出ると、ナビが右に行くように指示する。おかしいと思ったが、ナビの指示通り走ったがやはり30分くらい遠回りになった。ホテル到着が18時を過ぎてしまい、急いで温泉に入って19時から夕食となる。



ホテルの料理は豪華で皆さんお酒が進み、最後の晚餐は楽しい話で大いに盛り上がった。お腹が満たされたら部屋に戻り、明日の韓国岳山行に備えて早めに床に就いた。

10月31日(火) 登り鹿児島空港から羽田空港へ帰り帰宅する

ホテルピコラナイ 8:20=大浪登山口 P8:35/8:45~大浪池休憩所 9:20~避難小屋 10:25/10:30~韓国岳 11:20/11:30~獅子戸岳下降点 11:50/12:20~避難小屋 13:10~大浪池休憩所 14:00/14:10~大浪登山口 P14:40/14:50=ニッポンレンタカー-15:40/15:50=鹿児島空港 16:00/17:25→羽田空港 19:00/19:30=ホワイトパーキング 19:50=岩舟支所 P20:55

5:00から入浴が可能とのことで、1時間余りゆっくり温泉に浸かる人がいた。



朝の散歩を楽しむ人もいた。7:30朝食。

昨晚同様のおいしい食事をいただく。

8:20ホテルを出発。当初の計画の不動池や硫黄山のコースは、噴火警戒レベル2により通行不可の箇所があったため、大浪登山口から韓国岳を目指す。心配していた駐車場だが、幸い空きがあり駐車出来た。

8:45に登山口を出発し、石畳の続く歩きやすい道を進む。9:20大浪池園地休憩所着。青い空とコバルトブルーの大浪池が広がる休憩所で写真を撮る。



右回りのコースに入り、ところどころ景色のよい場所で池や紅葉を眺めると、どこのポイントでも写真を撮りたくなる。

10:25韓国岳避難小屋。ここから頂上までの約1時間の登りは、階段と固い溶岩の上を歩く。11:20韓国岳着。足元の大きな爆裂火口に、高所恐怖症でなくとも体がこわばる。なかなか見られない“これぞ火山”の景観。東に獅子戸岳、噴煙を上げる新燃岳を望むことができた。さらにその奥には高千穂峰がうっすらと見える。

写真を撮った後は、火口に沿って獅子戸岳下降点まで行き、少し戻ったところでゆっくり昼食を食べた。12:30韓国岳発、13:10韓国岳避難小屋着。ここからは往路と反対の道を、後ろに韓国岳を見ながらたどる。14:00大浪池園地休憩所着。最後の休憩で、またまた写真を撮りたくなる。



14:45大浪池登山口着。コースの変更を余儀なくされたが、大浪池のコバルトブルーと紅葉、霧島連山の景観を堪能した一日になった。お疲れ様でした。

駐車場でトイレと荷物の入れ替えを済ませ、鹿児島空港へ。空港ではお土産を買ったり、軽食をとったりして九州最後の時間を過ごした。

帰りの首都高から東北道は渋滞もなく順調に走り、21:00ぴったりに佐野藤岡ICを通過することができた。岩舟支所で解散、お世話になりました。

(小林しのぶ)

